

平成 16 年度 大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動報告

鳩ノ巣連絡協議会

[はじめに]

平成 14 年秋にスタートした大自然塾「鳩ノ巣フィールド」森林再生活動も丸 2 年を経過した。このフィールドにおける平成 16 年度の活動は NPO 法人森づくりフォーラムの管轄のもと、関連団体 2 グループによる「鳩ノ巣連絡協議会」によって毎月 1 回の定例イベントの運営・管理を軸に展開してきた。

活動内容は提出済みの「平成 16 年度活動計画」をベースに実施されたが、以下はその報告である。

[鳩ノ巣連絡協議会について - 活動の前提 -]

関連団体：樹恩ネットワーク・森林インストラクター東京会の 2 団体による共同運営
運営方法：月 1 回の定例会における協議決定により運営。

活動内容：月 1 回の「大自然塾」イベントの運営を柱とし、長期ビジョンのもとでの活動計画を実行する。

活動方針：長期ビジョンを始めとする活動方針を以下とする。 * 2003.5.12 作成

長期ビジョン

委託された現在の鳩ノ巣・棚沢地区の森を「豊かな美しい森 = 多様性のある森」として創出し、奥多摩町の活性化に寄与することで、東京都「大自然塾」活動のモデル・フィールドとする。

フィールドのあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、将来の森の“姿”として以下を目指すものとする。

- 生物の多様性
- 資源の多様性
- 森林形態の多様性

活動のあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、市民ボランティアを含む多くの協力者とともに、以下を活動のあるべき“姿”として展開する。

- 活動メニューの多様性
- 森林施業の多様性
- 参加者の多様性

フィールドの現状認識と将来像

* 別紙資料 A「鳩ノ巣フィールド森林計画」参照。

活動計画：上記の方針に従い、単年度活動計画を作成し、実行する。

* 別紙資料 B「平成 16 年度作業計画」参照。

[平成16年度活動報告]

1. 活動方針

「運営体制の強化と長期ビジョンの実現に向けた基盤づくり」

総括:後述。

2. 活動内容

2-1 月1回の「多摩の森・大自然塾」イベントの運営を柱とし、長期ビジョンのもとでの活動計画を実行する。

[実績]

東京都環境局主催の定例イベントは「樹恩ネットワーク」「森林インストラクター東京会」が隔月毎に指導責任者を出すことで、6月～3月において12回(雨天中止1回)を開催し、また東京都建設局主催のボランティア講座2回、森づくりフォーラム主催講座6回を運営し、延べ800名を超える参加ボランティアに対し、森林再生の意義と必要性を伝えるとともに年間計画のもとでの作業を指導した。特に参加者の「事故」もなく、当初の計画を達成することができた。

	実施日	主催	実施内容	参加者
1	2004/ 4/18	森づくりフォーラム	技術研修 [道具の使い方と道づくり編]	26名
2	2004/ 5/16	森づくりフォーラム	技術研修 [大鎌の使い方と下刈り編]	20名
3	2004/ 6/20	東京都環境局	定例イベント[案内・下刈り・鹿ネット改修]	46名
4	2004/ 7/18	東京都環境局	定例イベント[案内・下刈り・育成調査]	63名
5	2004/ 7/26	森づくりフォーラム	東京立正高校「ボランティア体験」	40名
6	2004/ 8/15	東京都環境局	定例イベント *雨天中止	-
7	2004/ 9/19	東京都環境局	定例イベント[案内・下刈り・育成調査]	47名
8	2004/10/17	東京都環境局	定例イベント[案内・道づくり]	54名
9	2004/11/ 3	森づくりフォーラム	技術研修 [枝打ち編]	31名
10	2004/11/21	東京都環境局	定例イベント[案内・間伐・育成調査]	49名
11	2004/11/28	東京都建設局	水元大自然塾[道具の使い方・道づくり]	31名
12	2004/12/11	森づくりフォーラム	技術研修 [間伐編]	22名
13	2004/12/12	東京都建設局	水元大自然塾[間伐・除伐実践体験]	30名
14	2004/12/19	東京都環境局	定例イベント[案内・間伐]	66名
15	2004/12/22	森づくりフォーラム	東京立正高校「ボランティア体験」	40名
16	2005/ 1/30	東京都環境局	定例イベント[案内・間伐] *1/16の代替	36名
17	2005/ 2/20	東京都環境局	定例イベント[案内・間伐]	56名
18	2005/ 3/ 8	東京都環境局	定例イベント[植樹祭準備・地拵え]	27名
19	2005/ 3/20	東京都環境局	定例イベント[植樹祭準備・地拵え]	41名
20	2005/ 3/27	東京都環境局	定例イベント[植樹祭]	83名

2-2 月1回の「鳩ノ巣連絡協議会」を開催し、定例のイベント運営の内容及び中長期ビジョンとの整合を図る。

[実績]

毎月第一月曜日を定例日としているが、4月～3月の12回を開催。森づくりフォーラム、樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会を主体に常時10名前後の参加者による協議により、毎回の定例イベントの運営体制、実施項目を調整・決定し、円滑なイベント運営に寄与した。

[課題]

定例イベントに対する多様な意見の反映のため、関連団体以外からの出席者の取り込みが必要である。

2-3 関連2団体は定例イベントとは別に、自主活動日を設け、目標とする作業計画の達成に努める。

[実績]

樹恩ネットワーク

回数:16回

動員数:延べ78名

主な作業:育成調査、道造り、残材整理、下草刈り、自主企画養成講座による実践作業体験

森林インストラクター東京会

回数:3回

動員数:延べ20名(約)

主な作業:植生観察、植樹祭準備

[課題と新たな取組み]

「作業部会」の発足 *17年度に向けて

鳩ノ巣フィールドの森林再生は月1回の定例イベント活動だけでは限界があり、管理2団体による自主活動を実施してきたが、さらに整備上、必要な作業も顕在化してきたため、新たに有志による「作業部会」を設立し、17年4月より活動を開始することにした。

*詳細は17年度計画案参照。

2-4 森づくりフォーラムとの連携のもとで、他団体との交流を促進し、イベント運営体制の強化を図る。

[実績]

奥多摩地区をフィールドとするボランティアグループは複数あるが、それぞれに個別の活動をしており、交流は促進しているものの、鳩ノ巣連絡協議会への具体的な参画までには至っていない。

[課題]

この方向での現実的な運営体制強化は課題が多い。

3. 鳩ノ巣連絡協議会としての重点実施項目

3-1 他団体及び個人活動者を巻き込んだ運営体制の構築

「多摩の森・大自然塾」活動に関わる諸団体との交流（「実行委員会」含む）を通して、樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体以外からの運営スタッフ・リーダーを確保し、運営体制を強化する。

[実績]

他団体については前述 2-4 の通り。

個人参加ボランティアに対しては個別に運営管理協力を呼びかけ、「他団体班長及び班長補佐の登用」「班長候補リストの作成」等を行った。

[新たな取組み]

個人参加ボランティアに対して、「鳩ノ巣連絡協議会」のPRとフィールド情報を共有する目的で、「鳩ノ巣つうしん」1号、2号を発刊した（今後とも隔月で発刊）。*別紙資料C「鳩ノ巣つうしん」参照。

連絡協議会はイベント運営の方向性を決める役割を担うが、参加ボランティアの意見を取り入れる意味で、現場である鳩ノ巣フィールド定例イベント終了時に開催することも検討したい。

3-2 各フィールドの将来像に基づいた作業計画の立案と実施

フィールド	現在の状況	将来の姿	16年度作業目標
	2000年に皆伐した跡地	落葉広葉樹林	下刈り及び観察と記録
	1999年に皆伐。2003年3月、中間部にスギ・ヒノキを植栽	上部：落葉広葉樹 中間：スギ・ヒノキ林 下部：花咲く樹木	下刈り シカ食害調査と対策 観察と記録
	1994年に皆伐した跡地	天然更新による極相林を目指す	道づくり 植生調査と一部除伐 林班区分と植樹計画
	2002年に皆伐。2003年3月に落葉広葉樹を植栽	落葉樹林	下刈り 観察と記録 地拵え・植樹準備
(1)	25年生のヒノキ林	見本となる人工林	保存木の調査 枝打ちと間伐
(2)	スギ・ヒノキ林	正しい針葉樹林	林地整備(柵・道作り) 間伐・枝打ち

[実績]

フィールド 以外は目標通りに実施・達成した。

フィールド については一部下刈り、除伐、道づくり、測量等を行ったが、面積も約5haと広いため、新たな全体計画のもと、17年度の重点フィールドとして取り組むことにした。*17年度計画案参照

3回目となった3月の「植樹祭」ではフィールド にスギ 90 本を捕植し、フィールド にはクヌギ(60 本)、ケヤキ(60 本)、ミツバツツジ(50 本)、イタヤカエデ(40本)など、11 種計 377 本の植樹を行った。

* 別紙資料 D「植樹マップ」を参照。

[課題]

フィールド(1)(2)の人工針葉樹林は当面の手入れがほぼ終わり、17 年度における「人工林作業」の場がなくなった。新たな人工林(放置林)の獲得を地元の協力も得て、実現したい。

3-3 作業道具の自前提供

国土緑推等の助成金申請により、充実化を図る。

[実績]

森林インストラクター東京会が申請した国土緑推「緑の募金」助成金は不採択。樹恩ネットワークが申請した東京都「緑の募金」助成金は採択された。定例イベント等の作業道具は森づくりフォーラム及び樹恩ネットワークの用具・備品で対応した。樹恩ネットワークの作業用具リストは 2004/10/25 現在、別紙の通りで、奥多摩学生寮内に保管されている。

* 別紙資料 E「作業用リスト・奥多摩学生寮保管」参照。

[課題]

自前用具の整備は今後とも必要なため、予算対策を見直しする。

3-4 フィールド境界の確定と図面化

境界確定は森づくりフォーラム及び山主の意向を前提とする。

[実績]

山主とのスケジュール調整ができず、未実施のまま、となっており、17 年度への持ち越しとなった。

3-5 植生・資源調査の継続実施とデータ管理化

調査・データ管理計画の立案から着手する。

[実績]

育成調査(2005/2/1 現在)

フィールド :コナラ 50 本 36 本 *活着率 72%

フィールド :エンジュ 20 本 18 本 *活着率 90%

ヒノキ 35 本 11 本 *活着率 31%

ヒノキ 80 本 77 本 *活着率 96%

スギ全 120 本 36 本 *活着率 30%

フィールド :コナラ他広葉樹全 1360 本 680 本 *活着率 50%

* 別紙資料 F「エリア別育成調査結果 」を参照。

植生調査(2004/5/1 調査・東京会有志)

草本類(シダ植物含む):65 種を確認

木本類(ツル性植物含む):112 種を確認

* 別紙資料 G「鳩ノ巣フィールドで見られた植物(5/1)」参照。

植生調査(2004/10/16 調査・東京会/藤井良造)

植物全般:127 種を確認

* 別紙資料 H「鳩ノ巣 秋の植物観察(10/16)」参照。

[コメント] 鳩ノ巣フィールドの植生は豊かで、観察フィールドとして素晴らしい。

水生昆虫調査:未実施

* 2004/8/12 調査結果は、

別紙資料 I「鳩ノ巣薬師沢水生生物調査」参照。

野生動物調査(2005/2/6 調査・野生動物専門家/中野晃生氏)

動物全般:9 種の痕跡を確認。

* 調査結果は別紙資料 J「鳩ノ巣哺乳類観察会」参照。

[コメント] 全体的にノウサギの痕跡が多い。ニホンジカは増加の傾向。

2004/5/1 の植生調査時に野鳥 6 種を確認。

シカ食害調査(2005/2/20 調査・都林試験場/遠竹氏)

シカ被害レベルは 7 段階中、レベル 2 程度か。それほど大きくはない。

[コメント] 東京都「森林ボランティア講座」の一環としての「シカ食害に関するシンポジウム」に参画協力し、鳩ノ巣フィールド現地ツアーにおいては食害の実態を視察。

蜂対策:6カ所にトラップを仕掛ける。

フィールドノートの作成:フィールド内の観察を記録し、共有化を目的。

[課題]

フィールド全体の資源調査は上記の通り、[育成調査][植生調査][水生生物調査][野生動物(鳥類・昆虫含む)調査][食害調査]の多岐に渡り、時間・労力とも負担が大きい。また、シカ食害調査では調査ノウハウも不足しており、その精度は疑わしいところもある。

可能な範囲での継続実施の方向としたい。

4. イベントを通じた重点実施項目

4.1 参加ボランティアの固定&継続化及び拡大化

固定&継続化については「中長期ビジョンの啓蒙」をベースとした「作業目標の共有化」及び実践的作業技術の提供を含む「作業内容の魅力化」に努め、拡大化については森林教育等親子・若年層を含む「募集対象の見直し」に取り組む。

[実績]

「作業目標の共有化」については「初参加者に対する“フィールド案内”」の中で、各フィールドの特徴を説明するとともに“その日の作業の意味”を解説し、ボランティア作業が単なる労働提供に終わることなく、全体目標の一環であることを理解できるよう、努めた。*フィールド案内は好評。

「作業内容の魅力化」についてはより高い作業技術の習得を目指した4回の“技術研修”を定例イベントとは別に行って、確実なリーダーを育成し、また一般ボランティアに対してはいわゆる“作業”ではない「育成・植生調査」を交えたりして、変化を持たせたりした。*両者とも好評。

「募集対象の見直し」については、唯一の公的告知媒体である東京都「広報」の限界(掲載されないこともある)もあり、十分ではなかった。

[課題]

定例イベントの参加者を分析すると、毎回“初参加者”が約半数を占める。ボランティア層の拡大という視点ではけっこうなことであるが、固定&継続化という視点としては“課題”ともいえる。3/27の植樹祭では「自ら植えた木を継続参加で育てましょう」等の呼びかけを強くしたが、今後ともこうした活動を意識的にしていく必要がある。

前述(3-1)の「鳩ノ巣つうしん」においても、固定&継続化の呼びかけを強化していく。

4 2 地元住民との連携体制作りの推進

各種活動を通じた交流を促進するとともに、地元における林業文化の継承や新たな林業事業化の方向を地元住民と考える基盤を作る。

[実績]

「森から生まれる大波ネットワーク」森のクッキングなど年4回、熊野神社お祭り参加、薬師堂お祭り参加、ホテル鑑賞会等により、交流を活発化させるとともに、3月の植樹祭では地元の方々との共同作業も実施。

柵沢地区の自治会長他、地元キーマンとの人間関係も深まりつつある。

4 3 他団体会員及び個人活動者を含むリーダー・スタッフ体制の構築

* 上記 3-1 に同じ。

[実績]

前述 3-1 を参照。

仮称「鳩の巣クラブ」の検討

鳩ノ巣フィールドの森づくり活動において、その主旨を理解し、継続的な参加をされている管理団体以外の参加者を柔らかい組織で取り込むグループ(仮称「鳩ノ巣クラブ」)結成を試みたが、意欲的なメンバーがなく、今回の設立は断念したものの、自主的な現場活動の組織体として将来的には実現させたい。

4-4 フィールド案内ノウハウの蓄積と共有化

「東京の森の再生」を目標とする「大自然塾」活動の意義を含め、「中長期ビジョン」を前提とした「フィールド案内ノウハウ」をリーダー・スタッフ間で共有し、参加ボランティア及び地元住民に提供し続ける。

[実績]

定例イベントでは毎回実施し、案内者も固定的だったメンバーから拡大してきたが、「ノウハウの蓄積と共有」の動きには至らなかった。

4 5 シカ食害対策の効果把握追跡調査の実施

15 年度に実施したシカ食害対策(ネット張り、棒ネット、ホダ木囲み、竹柵囲み)の効果把握の調査計画を立案・実施する。

[実績]

食害調査は前述、3-5 に順ずるが、各対策の効果把握は未実施。

[課題]

時間・労力投入の限界及び調査ノウハウ不足。

5. フィールド別作業活動計画とスケジュール案

フィールド	現在の状況	将来の姿	16 年度作業目標
	2000 年に皆伐した跡地	落葉広葉樹林	植樹後の下刈り
	1999 年に皆伐。2003 年 3 月、中間部にスギ・ヒノキを植栽	上部:落葉広葉樹 中間:スギ・ヒノキ林 下部:花咲く樹木	下刈り 下刈り・ 地拵え・植樹準備
	1994 年に皆伐した跡地	天然更新による極相林を目指す	全エリアの把握と道作り
	2002 年に皆伐。2003 年 3 月に落葉広葉樹を植栽	落葉樹林	シカ食害対策と枯損木の整理 柵及び薬師堂下部は地拵え・植樹準備
エリア(1)	25 年生のヒノキ林	見本となる人工林	間伐・枝打ち
エリア(2)	スギ・ヒノキ林	正しい針葉樹林	林地整備(柵・道作り) 間伐・枝打ち

[実績]

前述 3-2 に同じ。

6. 自主活動計画

各関連団体は定例イベントの他に、自主的な作業活動を実施する。

[実績]

前述 2-3 に同じ。

[16 年度活動の総括]

多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」の16年度は20回、延べ800名に迫る森林ボランティア対応としてのイベント運営に迫られ、また、その渦中であって、参加ボランティアの固定化・継続化やシカ食害対策等に様々な手を打ってきた。

フィールド全体の“再生”状況はフィールドを除き、計画通りの進捗で、放置されていたヒノキ人工林の手入れも、当初予定の皆伐地における植樹もすべて終了し、今後の作業計画も軌道に乗るものと予測できる。その意味でいえば、作業そのものは再生5年計画上で“一段落”したともいえる。

鳩ノ巣連絡協議会の動きは上記の現場対応に集中したため、組織的な運営管理の強化策推進等については後手に回った観があり、活動方針とした「運営体制の強化と長期ビジョンの実現に向けた基盤づくり」については、十分な成果を得ることはできなかった。ただし、17年度に向かってはいくつかの対策を打ったことにより、今後の基盤強化のためのヒントを得たこととして、全体の総括とする。

なお、17年度については冒頭の“長期ビジョン”を目指す継続活動の節目の年度にしたい。これは「16年度で作業は一段落」としたためでもあるが、フィールドへの取組みを重点実施項目とし、針葉樹人工林の皆伐跡地をどのような森に再生していくか、新たな試みにチャレンジしていきたい。

[その他]

1. 森づくりフォーラムへの要望

謝金制度の確定

[実績]

鳩ノ巣連絡協議会会計担当を設け、森づくりフォーラムからの謝金を一括して受け取り、配分する体制となった。

他団体及び東京都(環境局)とのコミュニケーション強化の推進

[実績]

特に、記載する活動はなかった。

2. 東京都産業労働局林務課及び環境局への要望

「大自然塾」事業方針の明確化

[実績]

東京都における大自然塾事業の考え方に心もとないところがある。17年度の予算対応は決定したが、2～3年後は“無くなる”との憶測もあり、その場合、「山主への説明等をどうするのか」

森フォとしては「企業とのコラボレーションなど自立を模索」していく。

都民に対する広報活動の強化

[実績]

特に、実績はないが、今後とも「大自然塾事業」は東京都環境局の主催であることを広く都民に周知するとともに、参加呼びかけの広報活動の強化に期待する。

以上 平成 17 年 4 月 15 日

作成：鳩ノ巣連絡協議会座長 岡田誓 (森林インストラクター東京会)